

## 平成21年度 県立美浦養護学校(特別支援学校)自己評価表

NO1

目指す学校像	◆ 児童生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための教育を行い、社会の中で自立し、こころゆたかにたくましく生きる力を育成する。 ○一人一人が安心して、生き生きと楽しく学べる学校 ○健康で安全に学校生活ができ、清潔で整備された学校 ○保護者、地域住民、関係者から信頼される開かれた学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○昨年度は、校内諸規定の整備、会議の精選、効率化や校務分掌の検討を進めてきた。今年度は、これらを一層推進し、組織化した協働体制づくりを更に進めることが課題である。	1 学校分掌組織の改善充実を図り、組織化した協働体制づくりを推進する。	① 学部・学年又は分掌部・担当グループ等においては、協働体制による計画的な業務遂行に努める。 ② 会議の精選、効率化、スリム化を図る。 ③ 校内諸規程の整備に努め、業務の統一性、継続性を一層推進する。	A
○「危機管理マニュアル」の見直しを進めるとともに、携帯電話を利用した保護者への「緊急連絡システム」づくり、保護者への児童生徒の「引き渡し訓練」など新たな取り組みを行ってきた。また、医療的ケア検討委員会を毎月行い事故防止に努めてきた。今後も危機管理意識を高めていきたい。	2 安全・安心な学校の体制づくりを推進する。	① 児童生徒及び教職員の事故防止と遊具等の保守管理・整備に努める。 ② 医療的ケアを要する児童生徒に対する安全なケアの実施と事故防止に努める。 ③ 学校危機管理マニュアルの活用を図り、緊急時対応を迅速かつ的確に行う。 ④ 緊急時を想定した避難訓練を実施するとともに改善・充実を図る。	B
○質の高い指導を進めるために、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」について研修を重ねるとともに、教育的ニーズにこたえるため、各学部で教育課程について検討を重ねてきた。今年度は、これらの一層の充実と県立医療大学との連携による理学療法士など外部専門家の活用による自立活動の支援を推進していきたい。	3 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育的支援を推進する。	① 「個別の教育支援計画」の作成と活用を図るとともに、検討・改善を進める。 ② 「個別の指導計画」の作成及び通知票と一体化した適正な評価を実施する。 ③ 理学療法士等の外部専門家を活用し、障害種に応じた自立活動の支援を推進する。 ④ 障害の多様化、重度重複化に対応した効果的な指導法の研究と教育課程を検討する。 ⑤ 一人一人の能力や特性等に応じた作業学習や現場実習等の充実に努める。	B
○高等部に加え、中学部でも新たに課外活動を開始することができた。「食育」についての全体計画の作成、「栄養に関する指導」、「よくかんで食べる実技指導」やアレルギー調査なども行った。今後、更に充実発展させていくことが課題である。	4 児童生徒の体力づくりを推進し、健康の維持増進を図るとともに、放課後活動等の充実に努める。	① 学部・学年等の実態に応じた体力づくりを進める。 ② 食に関する指導やアレルギー疾患対応等を研究・実践する。 ③ 将来を見据えたスポーツ活動や文化活動等の放課後活動・部活動を積極的に推進する。	B

○保護者対象の進路説明会や進路相談などを着実にを行い、労働・福祉等の関係諸機関との連携も深めるように努めてきた。今年度もこれらを一層推進するとともに、「社会人特別非常勤講師」や「就労支援員」を活用した職業指導や就労先の開拓が課題である。	5 児童生徒一人一人の能力や特性等に応じた進路指導を推進する。	①	保護者及び労働・福祉等の関係諸機関と連携した進路指導に努める。	B
		②	キャリア教育の考え方にに基づき、学部・学年間の系統性を踏まえた計画的・段階的な進路指導を推進する。	
		③	社会人特別非常勤講師等を活用し、高等部コース制における職業教育を推進する。	
		④	就労支援員を活用し、現場実習先や就労先の開拓に努める。	
○地域の支援要請を受け、様々な相談や支援に対応することができた。しかし、相談内容が多様化しており、それにこたえるためより専門性が必要になってきている。図書や教材、検査器具等について、使い方も含め、校内、校外への周知の仕方を検討することも課題である。	6 地域における特別支援教育のセンター的機能を一層推進する。	①	地域支援センターの整備と活用等を図り、校内支援体制を一層充実する。	B
		②	関係諸機関との連携を密にしたネットワークづくりに努める。	
		③	地域の障害のある乳幼児・児童生徒等に対する相談・支援を一層推進する。	
		④	教材教具等の貸し出し及び教育情報の発信を積極的に進める。	
○交流及び共同学習や地域交流を推進することができた。また、PTA活動や行政との連携も活発に行われた。今後も更に深めていくことが課題であり、全職員で支援する。	7 児童生徒の地域における豊かな生活づくりを積極的に支援する。	①	地域で生きる・育つための、交流及び共同学習や地域交流を一層推進する。	B
		②	児童生徒の居住地域における豊かな生活づくりのために、地区PTA活動の支援と推進に努める。	
○「開かれた学校づくり」を目指し、様々な視点から広く活動を展開することができた。今後も教育情報を提供するとともに保護者や地域の方々の声を大切にしていきたい。特に今年度は、スクールサポーターの活用、児童生徒作品展の開催による児童生徒理解、学校関係者評価委員会の活用が課題である。	8 地域に開かれた学校づくりを推進する。	①	スクールサポーター制度の充実を図り、教育活動等に積極的に活用する。	B
		②	児童生徒作品展を地域社会や校内において開催し、地域の人々への児童生徒理解を推進する。	
		③	学校自己評価・外部評価及び学校関係者評価委員会を活用し、学校運営等の改善を進める。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	課題及び次年度(学期)への改善策
教務部	・各部、各分掌部との連携を密に取り、円滑な学校運営に努めるとともに、学校組織の充実と改善を図り、組織化した協働体制を推進する。	・各部・学年、各分掌部との連携を密に取り、年間を通しスムーズな運営に努める。 ・役割分担を明確にし、効率よく業務を遂行できるようにする。 ・分掌部・学部・学年内での事務の担当をより明確にするとともに、事務の量に偏りが出ないように協力体制をくむことで、効率的に遂行できるようにする。1-①	A	各分掌部長や各係長は、サブになる人の育成に努め、長が不在でも業務に支障がないよう、また次年度への引き継ぎがスムーズになるよう年度当初から考え対応できるようにする。
		・各会議を計画的に行い、議題を明確にし、会議の時間短縮を図る。1-②	A	
		・自己評価Ⅱの項目を検討し学校評価委員会の年間計画を見直す。8-③	A	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内内規を校内ランに整理するとともに、業務の統一性・継続性を一層推進する。1-③</li> </ul>	B	
地域支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校のセンター的役割を果たしていくため、地域支援センターを整備し、要請に応じ、効果的・効率的な支援活動を適正かつ円滑に進める。また、本校入学・転入希望の保護者及び関係者に対し、相談活動等を適正かつ円滑に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の協力体制を整備する。(外部の参加者を募っての研修会での協力、自作教材等の紹介、HPアップの協力等)センター部員以外の職員の協力を広げていく。(地域支援センター、小1) 6-①</li> </ul>	B	B
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーター会議を継続し、高等学校のコーディネーターとの連携も高めていく。(地域支援センター) 6-②</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援活動係を中心に評価も含めて検討を加えながら、より適切な支援を素早く対応できるように努める。(地域支援センター) 就学に向けた教育相談を適切に行う。6-③</li> </ul>	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPでの教具の紹介及び自作教材の紹介を行う。(地域支援センター)</li> <li>・引き続き支援だよりの発行を行う。(地域支援センター) 6-④</li> </ul>	A	
学習指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した教育課程づくりや指導法についての研修を進める。また、障害の多様化・重度重複化に対応した指導を進めるために外部専門家との積極的な連携を図り、日常の指導に生かしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的な指標となるアセスメントを活用しながら、個に応じた支援を行う一助とする。(小学部)</li> <li>・個別面談等で保護者と丁寧な話し合いを行うことで児童生徒の現状を適切に捉えた支援課題を設定できるようにする。関係機関との連携にあたっては担当者間で連絡調整を十分に行い児童生徒を中心とした考え方を共有する。(学習指導部)</li> <li>・書式については実際に活用していく中で不備なところや改善点を出し合いよりよいものにする。(学習指導部)</li> <li>・学級・学年内で個別の指導計画についての話し合いを定期的に計画的に行い、指導、支援の充実を図る。(中学部) 3-①</li> </ul>	B	B
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定から評価まで実践をとおして丁寧に吟味を行い、児童生徒一人一人の課題を明確にした授業や生活指導ができるようにする。(学習指導部) 3-②</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児リハ・サポートネットワークの支援を積極的に活用することで理学療法・作業療法に関する知識を高めるとともに、日常の指導に生かせるような研修内容を考慮し進める。(学習指導部)</li> <li>・外部専門家の指導の仕方を職員全体で研修する。(中学部)</li> <li>・外部専門家の助言を受けながら、個別プログラムを作成し活用する。(高等部)3-③</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の特性や発達段階についての理解を深め、児童生徒の実態に応じた課題の設定ができるようにする。課題にあわせたグループ編成や指導法での実践を積み上げることで教育課程を実践的なものにしていく。(学習指導部)</li> <li>・研修の時間の確保や場を設け、研修の充実を図る。(中学部)</li> <li>・医療機関との連携(高等部)</li> <li>・自立活動コースにおいて個別プログラムを作成する。(高等部) 3-④</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活全体を通して、生徒の実態把握に努め、個別の指導計画の活用を図るとともに、作業班の編成、環境の工夫や、作業種・補助具の開発に努める。(中学部) 3-⑤</li> </ul>	A	
				<p>夏の研修会とともに、コーディネーター会議はアンケートから必要性が高く、内容を検討し継続が必要である。支援活動は今年度係4名での連携が密に行われた。一人ひとりの専門性を高めていくことは課題である。HPは、支援依頼文書のPDF化、個人情報保護の規約ページ作成、教材のページ作成が進んだが、全体的に見やすいページに見直す必要性が出てきている。就学に向けた教育相談に関しては緊急な相談に対しても柔軟に対応することができ</p> <p>各学部でそれぞれの研究課題を設定し、日々の実践とつながりを持たせた研修を行うことができた。特に重度重複障害児童生徒が多い実態から自立活動を中心とした教育課程についての検討を重視し、校外研修も行いながら実態に合わせた教育課程作りに努めてきた。今後は自閉症の児童生徒の特性に応じた指導の在り方について、さらにより良い指導についでいくために研修内容をいっそう充実させていく必要がある。肢体不自由児童生徒の指導について定期的に小児リハ・サポートネットワークの支援を受け、日常の指導に生かせるようにした。研修時間の設定が難しく全体のものとなっていない現状もあり残念である。引き続き支援を受けながら専門性を高めていきたい。</p>

生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスが円滑・安全に運行できるように努める。</li> <li>・学校管理化における児童・生徒の安全確保のための企画・運営の充実を図る。</li> <li>・集団活動を通して児童生徒間の交流を図る。</li> <li>・児童生徒会や委員会の一員であることを自覚し、学校全体の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・号車ごとの担当者を決め、各コースを十分に把握する。</li> <li>・SB連絡協議会・日ごろの情報交換を行い、運転手・乗務員との連絡を密にする。</li> <li>・運転手・乗務員へ緊急マニュアルに伴う情報を提供する。2-①</li> </ul>	A	A	交通安全教室や防犯訓練については、より効果的な方法を検討していく必要がある。緊急捜索カードについても使いやすい形に変更していく。特活係は、高等部よりも1名職員が欲しい。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室を実施し、登下校時や家庭における安全意識を高める。2-①</li> <li>・児童・生徒の緊急捜索カードを作成する。2-③</li> <li>・行方不明児童生徒の捜索訓練を実施する。2-③</li> <li>・不審者対応の防犯訓練を実施する。2-④</li> </ul>	A		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒朝会を実施する。</li> <li>・中央委員会を招集し、児童生徒が朝会等を企画・運営する。</li> </ul>	B		
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の児童生徒の実態や教育的ニーズに応じた進路指導と移行支援の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者及び労働・福祉等の関係諸機関と連携した進路指導に努める。(進路説明会、進路だより、進路情報の掲示、進路指導推進委員会、卒業生支援、実習報告会)5-①</li> </ul>	A	B	個別の教育支援計画、移行のための引継ぎ資料の様式や移行支援については、関係諸機関と連携を深めるためにも、さらに検討・改善していく必要がある。個別の指導計画は学習指導部、個別の教育支援計画は地域支援センター、移行のための引継ぎ資料は進路指導部で検討・改善を行い、個別の教育支援計画推進委員会で決定とするほうがスムーズに行えるのではないだろうか？学部間の系統性については各教科領域と関連するものも多いので、従来のような学部間でなく縦割りで研究・研修にしたほうがよいのではないか？高等部の職業教育や実習先・就労先の開拓、情報提示の工夫については、引き続き検討・改善していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部、中学部、高等部の系統性を図るとともに、移行のための引継ぎ資料を適切に活用しながら卒業後の生活への移行がスムーズに図れるように努める。5-①②</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部のコース担当者や教科領域の職業係と連携を図りながら高等部の職業科の系統表・指導計画を改善していくとともに、現場・校内実習、職業トレーニング、職業体験、職場見学(校外学習)、作業学習等の職業教育の充実に努める。5-②③</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場実習先や就労先の開拓に努め、就労支援・移行支援のための資料やマップを作成し、保護者や教員への情報提示がスムーズにできるように努める。5-④</li> </ul>	A		
保健安全指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の健康の保持・増進を図るとともに、事故のないように安全な環境づくりに努め、緊急時の対応については、マニュアルに沿った安全な対応ができるように職員間の共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に安全点検を行い、校内外の保守管理に努める。2-①</li> </ul>	A	B	緊急時の対応については、年度始めに全職員にマニュアルの確認を徹底するように努めていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の対応についての周知を図り、ヒヤリハット等の蓄積を通して、重大な事故を防ぐようにする。2-②</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災・地震・不審者を想定した避難訓練及び引き渡し訓練を計画し、緊急時のマニュアルに沿った安全な対応ができるように努める。2-④</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する指導の学部ごとの目標を立て、栄養士との連携を図りながら、食に関する指導の推進を図る。また、アレルギー疾患をもつ児童生徒を把握し、対応についての職員の共通理解を図る。4-②</li> </ul>	A		

渉外部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携を図り、児童生徒の休日や長期休業の過ごし方を支援する。</li> <li>PTA活動の推進や、連絡調整を行い、活発な活動ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールサポーター制度の推進と活用を図る。 8-① (授業への参加、部活動や環境整備の支援、地区活動への参加など)</li> </ul>	B	B	<p>今年度やっと地区活動にスクールサポーターの活用ができたことは良かった。しかし、登録者数を増やすことができなかったので、来年度は特に学生のサポーターを増やす努力をしていきたい。地区活動においては、「参加者がいつも同じになってしまう」との反省を受け、活動の内容を検討したり、ボランティアの依頼などについて話し合えるよう代表と担当教員の集まりをもつなどして対応していきたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の諸機関、ボランティア団体との連携を深める。 7-①②</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と学校との連携を図り、PTA活動への支援をする。 7-② (全職員で地区活動やその他の活動の支援を行う)</li> </ul>	B		
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化対策として、学校運営でも環境保全に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気料等の高熱費の削減、印刷物及びコピー枚数の削減、物品調達に関してはグリーン購入法適合商品・エコマーク商品等に努める。</li> </ul>		B	<p>電気料の削減については、前年度に対して大幅に達成できたが、印刷物については、外部発注から自前発注に変更したため逆に増えた。次年度も継続して努力したい。</p>
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活やいろいろな生活体験を通して、社会参加の基礎となる様々な力を育てる。</li> <li>・一人一人の児童がもつ能力や可能性を伸ばし、健康の保持・増進、基本的生活習慣の確立に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の障害や発達段階に応じた指導と支援の工夫に努める。 3-①②③④ 実態把握に基づいた個別の指導計画の作成、活用及び適切な評価 障害特性に応じた学習グループの編成</li> </ul>	B	B	<p>肢体不自由児童(3~6年)の自立活動グループを編成し、障害特性に応じた学習活動を実践することができた。次年度は、自閉症児の学習グループと活動について検討していきたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力づくりと健康の保持増進を図る。 4-① 下学年での遊具の活用と上学年でのトレーニングの充実</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立を図る。 3-①② 個に応じた段階的な指導の継続</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人とかかわる力の伸長に努め、楽しい学校生活を営む力を育成する。 3-③④ 集団活動での個別の配慮 一人一人の自己表現力の育成</li> </ul>	B		
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動を通していろいろなものへの興味・関心をもたせ、楽しんで活動しようとする意欲を育む。</li> <li>・教師や友達とのかかわり合いを豊かに育てながら、人や物に働きかける力を高める。</li> <li>・豊かな感情を育み、自分の気持ちや要求を言葉や身振り等で伝える力を高める。</li> <li>・一人一人に応じた基本的生活習慣の確立を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもの興味・関心や発達段階を考慮した学習内容や教材の工夫、支援の仕方の工夫に努める。 3-②</li> </ul>	B	B	<p>一人一人の児童が新しい学校生活に慣れ、いろいろな活動に楽しんで取り組めるようになってきている。一人一人の発達段階や障害の特性を考慮した支援をさらにすすめ、それぞれの目標を達成できるように取り組んでいく必要がある。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達との楽しい経験を積み重ねながら共感関係を育て、子どもたちが進んで活動する意欲をもてるような工夫をする。 3-②</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の発達段階や障害の特性を考慮した適切な働きかけや指導をすすめ、それぞれの目標が達成できるようにする。 3-②③④</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携を図り、学校と保護者が共通理解をもって子どもの発達課題に沿った取り組みができるようにする。 3-②</li> </ul>	B		
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通していろいろなものへの興味・関心をもたせ、楽しんで自分から活動しようとする意欲や主体性を育む。</li> <li>・教師や友達とのかかわり合いを豊かに育てながら、人や物に働きかける力を高める。</li> <li>・豊かな感情を育み、自分の気持ち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもの興味・関心や発達段階を考慮した学習内容や教材の工夫、支援の仕方の工夫に努める。 3-②</li> </ul>	B	B	<p>学年全体としてコミュニケーションの力がついてきている。またどの児童も個々の目標に向けて達成しつつあるが、まだ十分ではないので引き続き指導、支援を続けていく必要がある。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達との楽しい経験を積み重ねながら共感関係を育て、子どもたちが自ら進んで活動する意欲をもてるような工夫をする。 3-②</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の発達段階や障害の特性を考慮した適切な働きかけや指導をすす</li> </ul>			

	や要求を身振り等で伝える力を高める。	・一人一人の発達段階や障害の特性を考慮し適切な働きかけや指導を進め、それぞれの目標が達成できるようにする。 3-②③④	B	「ことば・かず」や自立活動について児童の実態を考慮すると、担任6名は必要と思われる。
	・一人一人に応じた基本的生活習慣の確立を図る。	・家庭との連携を密にし、保護者の願いを大切にしつつ、子どもの発達課題に沿った課題に取り組みが共にできるようにする。 3-②	B	
第3学年	・様々な活動を通して、興味・関心の幅を広げ、自ら活動しようとする意欲や主体性を育む。	・一人一人が学習の楽しさと、充実感を感じられるように、子どもの興味・関心や発達段階を考慮した学習内容や、教材の工夫に努める。 3-②	B	友だちや周りの大人に対して、不適切な行動をとってしまう児童について、共通理解のもと今後も支援を継続していく必要がある。周りの児童に対しての影響ということも踏まえて、個々に対しての適切な支援を今後も継続していく必要がある。
	・友達や教師とのかかわり合いを大切に、豊かな感情を育てるとともに、集団としての意識を高める。	・明るく楽しく、安心して過ごせる環境づくりに努めるとともに、集団性を意識した学習活動の工夫をする。 3-②	B	
	・豊かな感情を育て、個に応じたコミュニケーションの力を育てる。	・一人一人の発達段階や障害の特性を考慮し、適切な働きかけや支援を行い、個々の目標が達成できるように努める。 3-②③④	B	
	・個に応じた基本的生活習慣の確立及び健康の保持増進を図る。	・家庭との連携を図り、保護者の願いを大切にしつつ、子どもの発達段階に沿った取り組みをする。また、健康維持のために必要な活動を積極的に取り入れていく。 3-②	B	
第4学年	・様々な活動を通して、興味・関心の幅を広げ、自ら活動しようとする意欲や主体的に取り組む態度を育む。	・一人一人の子どもの興味・関心や発達段階を考慮した学習内容や教材・教具の工夫に努める。 3-②	B	様々な行事や活動を通して、児童の実態に応じて目標を設定し、実施してきたが、次年度も障害特性に応じた指導を引き続き行っていく必要がある。朝のトレーニングや体育、校内歩行等、体力作りを行ってきたが、肥満傾向の児童も見られるため、次年度も継続して行う。
	・教師や友達とのかかわり合いを大切に、豊かな感情を育てるとともに集団の一員としての意識を高める。	・楽しく、安心できるクラスづくりに努めるとともに、集団性を意識した学習活動を大切に。 3-②	A	
	・豊かな感情を育み、意思の表出を促しながらコミュニケーション能力を高める。	・一人一人の発達段階や障害特性を考慮した適切な働きかけや指導を進め、それぞれの目標が達成できるようにする。 3-②③④	B	
	・個々に応じた基本的生活習慣の確立を図る。	・家庭との連携を密にし、保護者の願いを大切にしつつ、子どもの発達課題に沿った課題に取り組みが共にできるようにする。 3-②	B	
第5学年	・様々な活動を通して興味や関心の幅を広げるとともに、友達や教師とのかかわり合いを大切に、集団の一員としての意識を高める。	・一人一人の発達課題や障害の特性を考慮した適切な働きかけや指導を進め、それぞれの目標が達成できるようにする。 3-②	B	個人指導をしたいところで行うことができなかったが、生活支援員の方に入ってもらったことで、それが行える場面が増えた。障害が重くなる児童や新入生があることを考えると担任6名は必要と思われる。トレーニングや体育において、運動量を確保できるような内容を設定してきた。が、それだけでは不十分のため、今後も家庭との連携をとりながら取り組んでいきたい。
	・心身の健康の保持増進を図る。	・一人一人の発達課題や、障害特性を顧慮した適切な指導支援を進め、それぞれの目標が達成できるようにする。また肥満対策としてできるだけ体を動かす時間を設ける。 3-②	B	
	・見分ける力、聞き分ける力、コミュニケーションの力を育てる。	・児童が充実感を感じられるように、学習内容や教材場面設定などの工夫に努める。 3-②	B	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人に応じた基本的な生活習慣の確立を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく安心できるクラスづくりに努め、児童が主体的に伸び伸びと行動できるようにする。 3-②</li> </ul>	B		
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な活動を通して、興味・関心の幅を広げるとともに、友達や教師とのかかわりを豊かにし、集団的な活動に発展していくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の発達課題や障害の特性を考慮した適切な働きかけや指導を進め、それぞれの目標が達成できるようにする。 3-②③④</li> <li>明るくて楽しく、安心できるクラスの雰囲気づくりに努め、児童が主体的に伸び伸びと行動できるようにする。 3-②</li> </ul>	B	B	<p>様々な活動等を通して、個々なりの集団への意識が見られてきた。さらに、高めていけるよう継続していきたい。</p> <p>今後も一人一人の発達、障害、生活実態等について適切に把握し、その中から一人一人の発達課題を丁寧に見極めながら支援・指導を進めていきたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな感情を育て、個に応じたコミュニケーションの力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の喜びと充実感を感じられるように、児童の意欲や期待を大切にしながら学習内容や教材、場面設定等の工夫に努める。 3-②</li> </ul>	B		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々に応じた基本的な生活習慣の確立及び健康の保持・増進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任間の話し合いを丁寧に行い、子どもの発達課題に沿った指導を共通に進められるようにする。 3-②</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携を密にし、保護者の願いを大切にしつつ、発達課題に沿った取り組みができるようにする。また、医療機関と連携を図りながら指導にあたる。 3-②</li> </ul>			
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の障害の状態や、特性及び発達段階を踏まえた学習指導の実践に努め、意欲的に活動する生徒を育てる。</li> <li>集団生活や生活体験を通して、それらへの関心を高め、主体的に生活する力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画の活用、評価の工夫を通して一人一人の実態に応じた指導内容の精選と支援の工夫に努める。 3-②</li> </ul>	A	B	<p>中学部段階でのキャリア教育のあり方として、実践を通しながら、系統的、段階的な指導内容を検討していきたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習や、作業学習、総合的な学習の時間等の計画的な実施と指導内容・方法の工夫に努め、社会生活に必要な基礎的知識・技能・態度の習得を図る。 3-④⑤</li> </ul>	A		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>友達や教師など人に対する関心をもち、人とのかかわる力や集団を意識して自己を表現する力を育む。 3-②</li> </ul>	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒についての理解が深まるように、地域や学校間での交流の充実を図る。 7-①</li> </ul>	B		
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に必要な基本的な生活習慣および身辺処理能力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた、身辺自立に関する目標を設定しその確立を図るための支援方法を工夫する。思春期の特性に配慮し、中学生らしい生活環境を整える。 3-①②</li> </ul>	B	B	<p>中学生としての自覚を培い、社会生活の基礎となるマナーや身だしなみなどについて重点的に支援してきた。個々の課題は多様であるがどの生徒にも成長が感じられる。また、行事等を通して自分の役割を理解して主体的に取り組む姿も見られた。今後はさらに実生活に即した学力や技能の向上を目指していけるとよい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に必要な基礎的な学力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害等に関する理解を深め、個に応じた指導や支援の仕方を工夫する。 3-①②</li> </ul>	B		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な活動に参加し、生活経験を広げるとともに、互いに認め合いながら学び、集団の中で生活していく力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な学習を進んで取り入れるとともに、多様な集団形態を設定し、友達関係を広げながら人とのかかわりを深め、協力する態度を養う。 3-①②</li> </ul>	A		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康な身体づくりと体力の向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しみながら主体的に体を動かすための支援の工夫をし、体力づくりに努めるとともに、運動能力の向上を図る。 4-①</li> </ul>	B		
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じて日常生活に必要な基本的な生活習慣および身辺処理能力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思春期の特性に配慮し、中学生らしい生活環境づくりに心がける。あいさつ、返事、身だしなみ、整理整頓などの定着を図る。 3-②</li> </ul>	A	A	<p>個別の指導計画に基づき、保護者・担任間の共通理解を図りながら、生徒個々の目標達成に近づくための支援・指導を進めてきた。手だての工夫・改善とともに、日常生活の中で活かせるようにしていきたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に必要な基礎的な学力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害等に関する理解を深め、個に応じた指導や支援の仕方を工夫する。 3-①②④</li> </ul>	B		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な活動を通して、いろいろな人と豊かにかかわり合う力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な集団活動を設定し、友達関係を広げながら、人とのかかわりを深めていけるように、場の設定や適切な働きかけを工夫する。 3-①②④</li> </ul>	A		

第3学年	・個に応じた基本的な生活習慣の確立を図るとともに健康的な生活が送れるようにする。	・生徒一人一人の障害や課題を考慮した適切な支援や指導を進め、一人一人の目標が設定できるようにする。 3-①②④⑤	B	B	ひとりひとりの障害の特性を考えながら多様な活動内容を考え、学習を進める中で、人とのかかわりをもたせ、より具体的な物を提示しながら授業に取り組む。また、生徒の理解を深めるための工夫を常に考えていくことが必要である。
	・様々な活動を通して、人や物に興味関心をもち、課題や活動に意欲的に取り組めるようにする。	・保護者との連携を密にし、生徒の実態と課題について共通理解を図りながら、指導を進める。 3-② 7-①②	A		
	・日常生活に必要な基礎的な学力を高める。	・友達や教師とのかかわりを楽しみながら、集団生活の中で、それぞれの生徒が力を高めていけるような学習活動を工夫する。 3-① 3-②	B		
訪問教育	・心身の健康の維持・増進を図る。一人一人の疾病や障害の特性、発達段階や生活経験の拡大に努め、社会性の基礎を培っていく。	・健康状態の適切な把握と保護者や医療機関との連携を図る。 2-②③	B	B	一人一人の障害特性に応じた学習活動ができた。集団活動への参加については、体調等により難しい場合もあるが、行事に関連する内容を授業に取り入れるなどしながら本人や保護者を励ましていきたい。
		・学習中のポジショニングを工夫する。 3-③	B		
		・身近な人や事物・事象とのかかわりを意識して、生活経験の拡大を図り、社会生活を意識した指導内容の作成と実践に努める。 3-①④	B		
		・生徒一人一人の疾病や障害の特性、また発達段階の他、生活環境に応じた指導内容の選択と指導方法の工夫に努め、進路について考える機会も設ける。 3-④ 5-① ・集団活動への参加(スクーリング)や社会生活への参加を意識して活動する。 3-④	B		
高等部	・一人一人に応じた社会自立に必要な生活能力を身に付けさせ、将来社会の一員として生きがいをもち生活できる力を育成する。	・発達段階や、特性に応じた学習形態や学習グループの編成、指導内容・方法の工夫と実践に努める。 3-②③④ コース制の実施、医療機関との連携と個別プログラムの作成	B	B	・コースごとに指導内容・方法と実践に改善が見られたが、次年度に今年度の成果を引き継ぐためにも、コース間の共通理解をさらに図ることが必要である。 ・職業科の充実が図れてきた。外部機関とのさらなる連携が必要である。 ・給食指導の中で食育に関する指導を行ってきた。栄養教諭と連携を図りながらの指導が必要である。
		・進路指導部との連携を図りながら、個に応じた職業科の展開を図るとともに、地域人材の有効的な活用を検討する。 3-⑤ 5-②③ 職業科の学習内容系統表・個人チェック表の再検討と有効的な活用 職業科における社会人特別非常勤講師の活用(福祉・都市園芸)	B		
		・就労や、卒業後の生活につながる体験学習や作業学習、校外学習を計画的に進める。 3-⑤ 5-② 一人一人の実態に応じた職業トレーニング、職場見学・体験を計画・実施	A		
		・健康の保持増進に向け、運動の時間の確保と部活動の充実にも努めるとともに、食育に関する指導を取り入れる。 4-② ③ 運動能力のデータ化と活用、トレーニングの時間の確保と持久走記録会の実施、対外行事への積極的参加、学年・コースの実態に応じた食育指導の実施	B		
第1学年	・日常生活に必要な基本的な生活習慣の確立を図る。	・個々の課題を明確にし、支援の仕方を工夫するとともに、継続的に指導を積み重ねる。 3-①②	B	B	・個々の課題については共通理解をもって指導にあたり達成された部分もある。今後も継続的な支援や支援の工夫が必要である。 ・行動や着替えに時間がかかり、トレーニングの時間が確保できない生徒がいる。時間とのかねあいを考えながら、運動量の確保を目指した工夫が必要である。好き嫌いをなく食べることの大切さを学習したことで、偏食が改善されてきている。 ・生徒の実態に応じた支援や場の設定を共通理解をもち行ってきた。生徒一人一人が自分の意思を表現できるようになってきている。
	・情緒の安定を促し体力の向上を目指しながら心身の健康を図る。	・毎日のトレーニングや体育を通して運動量を確保する。 4-① ・衛生面や食育に関する指導を取り入れる。 4-②	B		
	・将来の生活に必要なコミュニケーションの拡大を図る。	・それぞれの実態に合った表現方法で自ら自分の意思を表現できるような支援の工夫に努める。周りの人とのかかわりをもったり、深めたりできるような場の設定を意図的に行う。 3-④	A		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に必要な基礎的な態度や能力を養い、進んで働こうとする意欲を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に職業科や作業を通し、就労や卒業後の生活をイメージし、準備できるよう個に応じて支援をしていく。5-② 3-⑤</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や日常生活の中で、進路を意識できるような支援を行い、生徒の意識も徐々に浸透しつつあるが、さらなる意識の深まりを目指したい。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の発達課題や障害の特性に応じて、将来の社会生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能・態度を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の目標を明確にし、各コースごとの実態に応じたグループ編成や形態を工夫し、個に応じた学習を取り入れる。3-②</li> </ul>	B	B <ul style="list-style-type: none"> <li>学年、各コースの中でグループ等をさらに細分化することによって、一人一人に応じたよりきめ細かな指導ができたものと思われる。</li> <li>年2回(もしくは3回)の実習、生単、職業の授業等を通して社会生活に必要な力を身に付けさせることを随時行ってきた結果、1年次には、それほどでもなかった卒業に対する意識を生徒の中にも少しずつ浸透させることはできているものと思われる。</li> <li>毎日のトレーニング、体育の時間、一部部活動)での体力保持、増強に努め、ある程度の成果が見られている。食事などについては家庭とのより強力な連携が今後の課題といえる生徒もいるので課題としたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の社会自立・参加に向けて積極的に社会参加しようとする意欲や態度を育てるとともに、進路指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の実態を正確に把握し、コースごとの職業学習や現場・校内実習または生活単元学習の中で社会生活に必要な力を身に付けさせる。3-⑤ 5-③</li> </ul>	B	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の保持増進に向け運動の時間の確保と部活動の充実を努めるとともに食育に関する指導を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康や安全に留意し、基本的な生活習慣の確立及び健康の増進と体力の向上に努める。4-①②③</li> </ul>	A	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の発達課題や障害に応じて、社会生活の基となる基礎的・基本的な知識や技能・態度及びコミュニケーション能力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階や、特性に応じた学習形態やグループの編成、指導内容・方法の工夫と実践に努める。3-①②</li> <li>・個別の指導計画・教育支援計画の作成や活用にあたり、保護者、コース担当者及び学級担任との共通理解を図る。3-①②④</li> </ul>	B	B <ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画については、大体共通理解が図れたが、教育支援計画については、活用についてが曖昧であった。次年度は、教育支援計画の活用について共通理解が図れるようにしたい。</li> <li>食育に関する指導が十分でなかった。次年度は、栄養士や養護教諭等とも連携を図り、栄養指導または地産地消の指導を行いたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の保持・増進に向け、運動時間の確保と基本的な生活習慣の確立及び体力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に応じたグループごとの体育の充実や運動量の確保に努める。4-①②</li> <li>・部活動の充実やサークル活動を推進する。4-①③</li> <li>・食育に関する指導を取り入れる。4-①</li> </ul>	B	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の実態を的確に把握し、社会生活に積極的に参加しようとする意欲や態度を育てるとともに現場実習の充実を図り、卒業後の進路につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部との連携を図りながら、個に応じた職業科の展開を図るとともに、地域人材の有効的な活用を検討する。5-①②③</li> <li>・自主的に活動できるような場面の設定に努め、働きかけや支援の方法を工夫する。5-①②</li> <li>・現場実習先の担当者及び保護者と綿密な連携を図り、充実した実習ができるようにする。5-①②</li> </ul>	B	

※評価基準： A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できてない